

SHINGON HORONIC

色 は 匂 へ ど

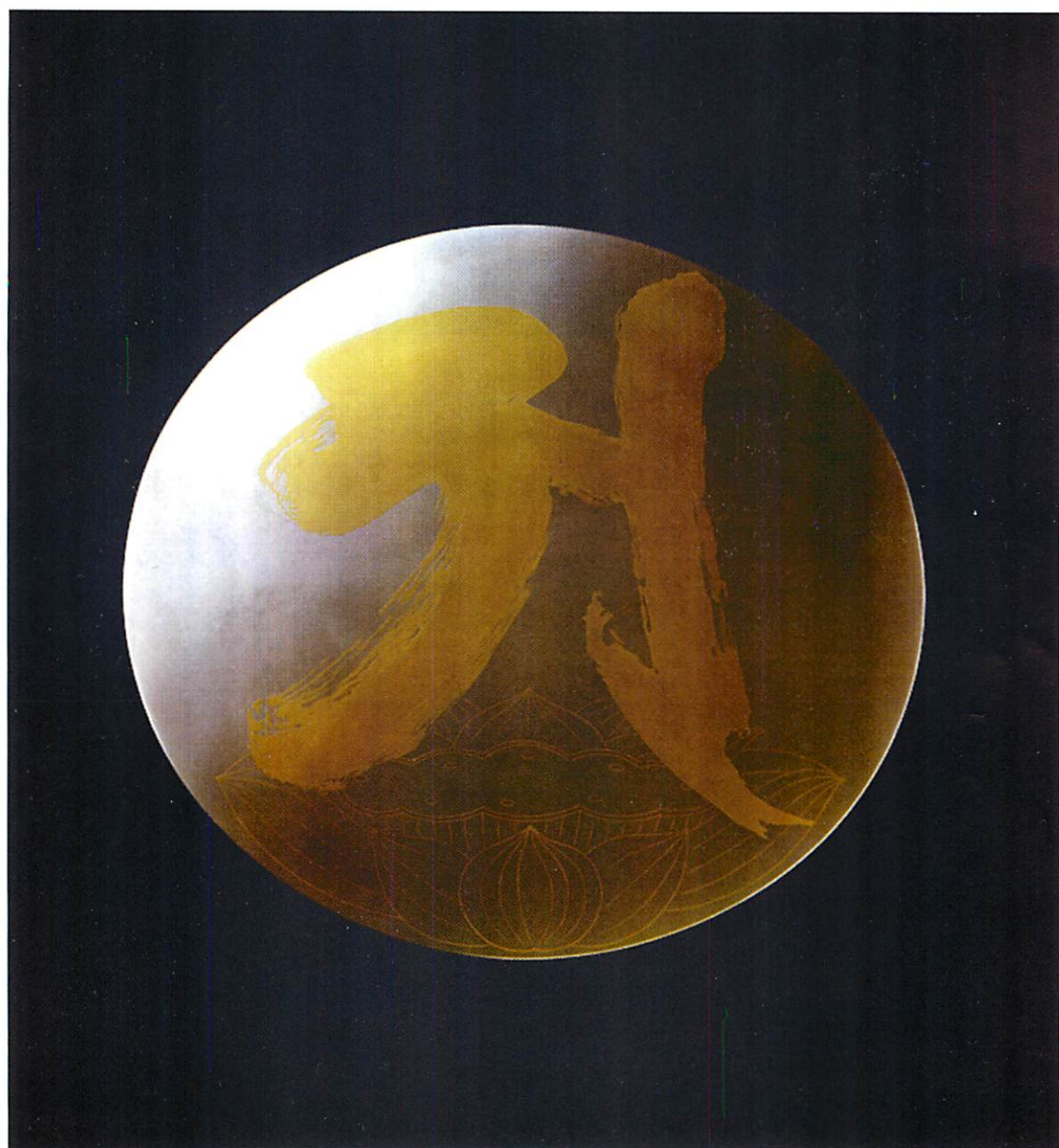
I R O

W A

N I O

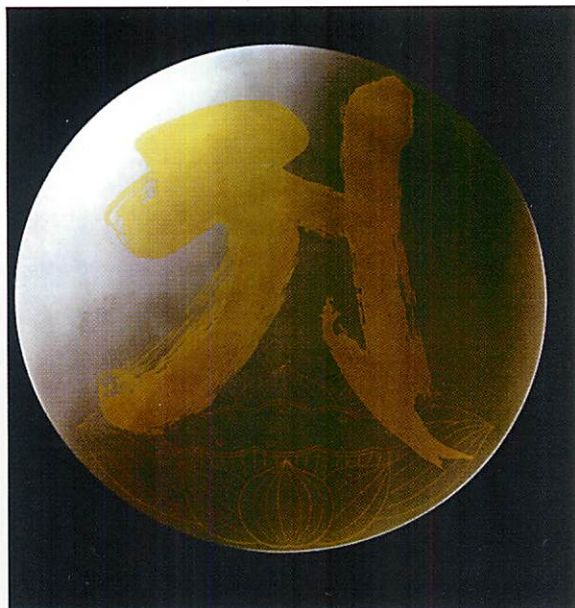
E

D O



特集 自然農法に学ぶ現代の救い
福岡正信翁にきく

平成九年睦月一日発行 巻壺



阿字観本尊

美しい月輪の中で蓮のうてなに
輝くア字。宇宙の初めの音
この阿字を前に瞑想をすると
心が宇宙いっばいに拡がります

新年、明けましておめでとうございます。
このたび心の情報誌

「色は匂へど」を創刊いたしました。

テーマは、いのちと心と環境です。

いろは歌は古来からよみつがれ、うたわれてきた美しい歌ですが、
まったく知らない世代も多くなりました。日本の素晴らしい文化と
世界に誇れる伝統がともに見失われてきています。

いま、私たちが失いつつあるものを、いろはから見つめ直したいと
おもいます。

いろは歌にはさまざまな意味や謎がありますが、その意味や謎を探
りながら、日本人のもつ、たぐいまれなる、豊かな感性や、自然観、
そしてもっとも大切な日本人の「こころ」をひもといて参ります。
どんな「いろは歌」が紡がれていくのか、ぜひお楽しみ下さい。

いじめ・脳死・食糧問題など多くの問題を私たちは抱えています
霧をかけて月を見るように、解決への糸口が見えてくるはずですが

さて陰暦、月のこよみの正月は西暦九七年二月八日です。新月から
始まります。

そして陰暦の大晦日には大雪がよくふります。

私たちがもっている季節感、陰暦になおすとよくわかります。

よき一年、心よりお祈りいたします。

編集主幹 阿部龍樹

特集

自然農法に学ぶ

現代の救い

福岡正信翁に聞く



3

日本のこころと形

美しい日本の美とは



7

平成三年に完成した総檜

造りの塔の完成までに

秘められたストーリーを追う

9



11

現代の道しるべ

混乱する今を生きる

現代人へ



12

チベット密教絵画の
意味するもの

やすらぎの空間

都会の中で瞑想ができる茶室



13

新刊紹介

14



自然農法に学ぶ現代の救い

水もやらない 肥料もやらない

人間は自然の邪魔をしてはいかん

今、福岡正信翁の自然農法が注目を集めている



世界中で読まれている「わら一本の革命」 春秋社刊

赤土はやせた土ではない まだ若い土で黒土になるきつかけを待っている そのきつかけがあれば赤土や粘土は豊かな黒土に変身する

今、地球環境の悪化と食物の安全性から農薬大量散布型の農業には、農家からも消費者からも疑問がもたれています。無農薬農法、有機農法、低農薬栽培、水耕栽培等に注目が集まっています。

しかし水もやらない、肥料もやらない。自然は自然のままにしておけば豊かな緑になる。砂漠も必ず豊かな緑になる。そんな夢のような自然農法が、いま世界で注目されています。インドのやせた広大な大地を実り豊かな沃野に変え、タイの北部スコータイ地方に自然果樹園と豊かな田園を復活させ、アフリカの砂漠の緑化を進めています。

「人間がね。大地を耕すことから自然破壊が始まったんです。英語で文化のことをカルチャーといいますね。カルチャーの語源は耕す、掘り起こすということですよ。キリスト教では人間と自然を相対化して、自然は悪魔だ。人間が耕して秩序を付けなければ危険で人間に害をなす。という考えでしょ。人間が自然をどうにかして何かを生産する、生産できるというのは、人間の傲慢な考え方ですね。

赤い土がやせた土で、黒土が養分のある豊かな土というのは、人間の頭でかんがえていることです。地球には害虫も益虫もいないんです。みんな役割を持っている。人間の頭で考えて害虫と益虫に分けるんです。

この大根は赤土に種をまいただけでこんなに太った立派な大根が出来



桜や桃、大根と菜の花が咲く中でうぐいすが鳴く、まさに桃源郷。十年前の禿げ山とは思えない。



るんですよ。」

福岡さんの自然農園は四国の伊豫市にある。突然の訪問にもかかわらず快く案内していただいた。ご自宅から車で五分。坂を登ると小さなコンクリートミキサーが置いてあり、その周囲には小さな泥だんごがたくさん落ちていた。

「この粘土だんごをまくんです。このだんごの中にいろんな種を混ぜてね。種をそのまま蒔いても鳥が食べるでしょ。だんごにするとその中の種が勝手に芽を出します。その土地にあった芽がね。この山は十年前まで禿げ山だったんです。」

センダン、アカシヤの木の中に桃の香りがひろがり、足下には大根の花の白と菜の花の黄色、谷の奥には山桜、沢のフキの濃い緑、みかん。そしてうぐいすの美しい声。なぜか懐かしさをおぼえる。

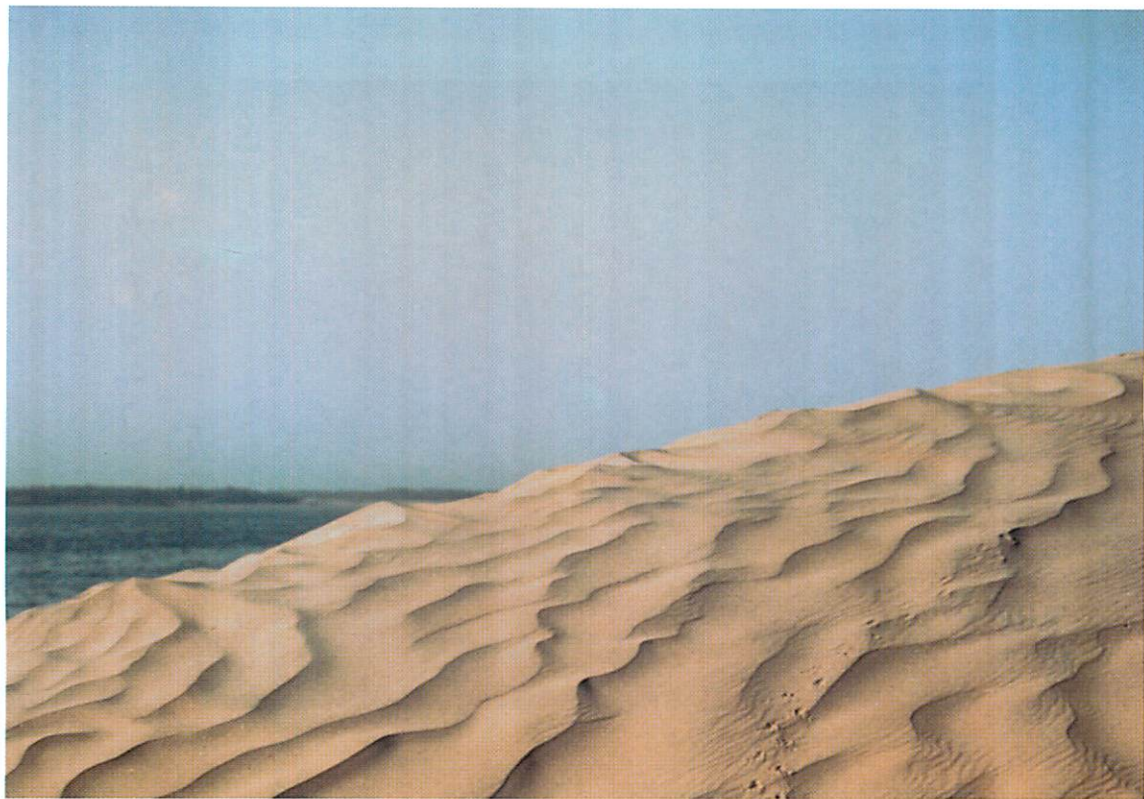
「このアカシヤは鳥が種を蒔いたんです。そして太陽のエネルギーが育てるんです。肥料も農薬もいらないんです。太陽の光線から考えれば、どんなものでも一平方メートルに一キロできるんです。一反に米十俵ではなく、十五俵でも二十俵も出来るんです。」

農薬を使えば増産出来ると言うわけではないんです。農薬を使った悪影響の方がはるかにこわいですね。」

福岡さんはご自身が農業試験場の試験官の経験から、農薬に支えられる農業に疑問をもたれるようになる。

「農薬の試験方法が問題なんです。」

「田んぼの全体性を見ないで、細切れのデータに頼るんですよ。実際の田んぼには、太陽光線があり、水と空気と土壌と、また病虫害。さまざまなものが関係しているわけです。その要因は無限ですね。その本来無限の物を、人間の小さな知恵で組み合わせて小さくまとめて発表



地球の砂漠化が進む。陸上も海の中も。

しても普遍性が無いんです。百姓のところに持っていっても実際には使えないんですね。私はいままでの農業技術を根本から否定してね、科学技術を。この科学技術はどこから来たかというところ、西洋哲学でしょ。その否定から私は出発しているんです。」
近代文明のおかげで、人々は豊かになった。この豊かさも否定されるのだろうか。

「地球というのは、地球上の生命がみんな共存できるようになっているんです。百億の人がいれば、その人口を支える食物が得られるようになっていたんです。しかしね。西洋人がアフリカを植民地にし、コーヒーと紅茶を作らせる。本来の緑を壊してね。インドも占領して綿を作らせて。フィリピンなんかは昼寝をしていけば、グアバが口の中に落ちてくる、アメリカが来る前はね。それをみんなダメにしてしまったんです。人類は他の生命と共生できる。地球には本来それだけの調和があるんです。生きることだけを考えればね。」

「ダーウインの進化論ではダメなんです。適者生存、優勝劣敗ではね。劣った者を滅ぼし、強い者だけが生き残るという考えではね。」
「生活をね、芸術のようにすれば良いんです。私の本を読んだドイツの方がね。牛乳は腐る前に売れば良い。腐らない牛乳はおかしい。で大きな工場をやめて小さな店に変えたそうです。野菜も近くで採れたてのもの、牛乳も搾りたての店にしたそうです。その方が自然で美味しいでしょ。」

さてこの福岡流の自然農法を都内で実験する。果たして水もやらす肥料もやらす、農薬も使わないで野菜や果物が出来るのか。その経過を次号より連載していく予定です。

文・写真 阿部龍樹

日本のこころと形 五節句を祝う



だいだいは輝く日輪 松 千年の翠

TEXT&PHOTO SHU FUJIWARA

日本にはいつつの節句があります。
五節句です。

正月七日の人日。じんじつ

三月三日の上巳。じょうし

五月五日の端午。たんご

七月七日の七夕。たなばた

九月九日の重陽。ちようよう

正月七日には七草粥をいただきます。

せり

なずな

ごぎょう

はこべら

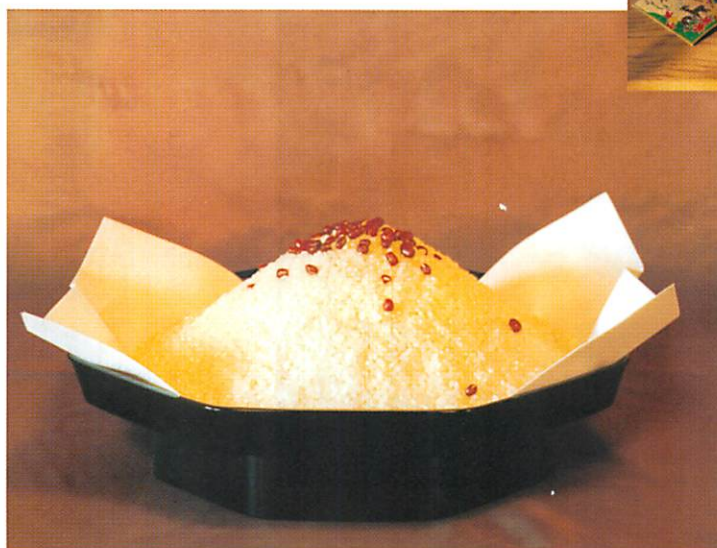
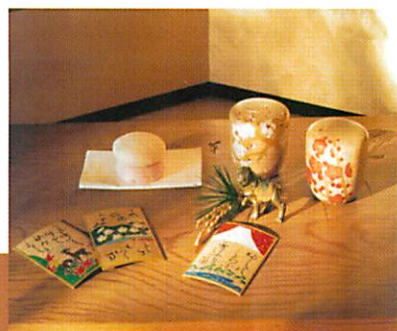
ほとけのざ

すずな

すずしろ

新しい大地の精をを得て地上に芽をだす
七草。

新年に七草をいただくことで天地の生ま
れたての新しいエネルギーを得られます。



稲玉（いなだま）

日本は美しい瑞穂の国

採れた新米を丁寧洗い

高坏や押折に盛ります。

そこに小豆を散らすだけで

紅白のお飾り・

稲玉ができます。

稲の魂 稲玉を飾り、七草を

いただきよき新年をお祈り

しましょう。



満願寺大塔建立

文
転法輪
一

平成三年に松皮葺きの

美しい大塔が完成した

大塔建立の秘話を追う

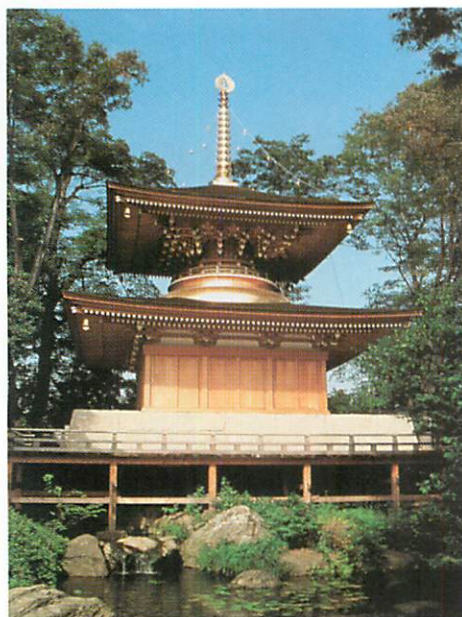


PHOTO
SHU FUJIWARA

夢のお告げと大塔

昭和五十九年三月二十一日は弘法大師さまの一千百五十年のご遠忌に当たります。満願寺では春彼岸の法要の日です。この日、法要をつとめていた大導師(満願寺貫首)にお大師さまのお告げがありました。

「大塔を建立せよ。池の向かい、樹林の中に」

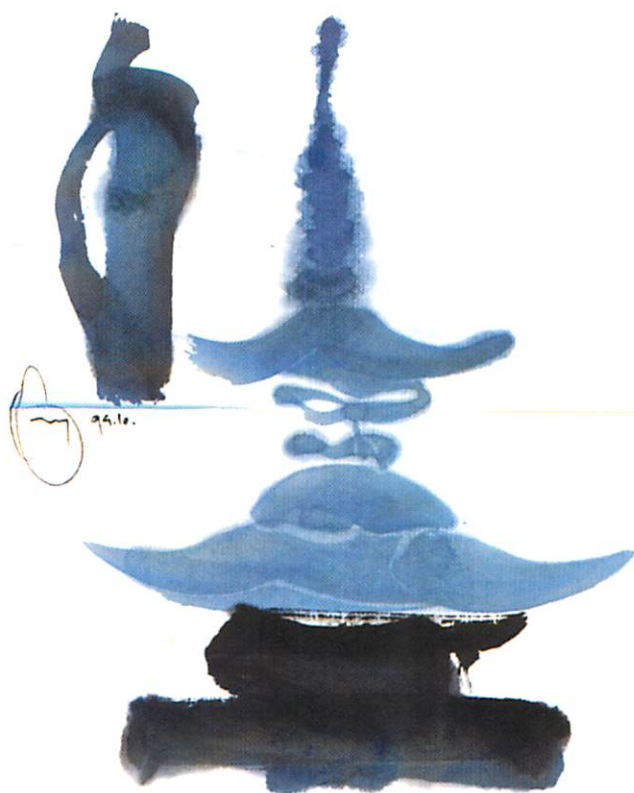
不思議なお告げでした。大塔を建立する位置まで示されて。しかも示された場所は大樹の中にそびえる大塔が、山門から望まれる唯一の場所で、その塔影を池にうつすことになりました。

満願寺ではこの日まで、お大師さまのご遠忌には大曼供という法要だけを営むことにきめていましたが、このお告げから大塔建立という大事業にむかって進み始めます。

夢のお告げについてお話ししましょう。

平安時代。お大師さまのすこし後の時代に、仁和寺を建立された宇多上皇という方がおられました。宇多上皇の夢枕にお大師さまが私たちになりました。そして

「私の衣がすっかりいたんでしまった。新しい衣に替えて欲しい。」とつげられました。そのときのお大師さまのお姿は、衣はいたみ髪も髭ものびたお姿でした。宇多上皇は、東寺長者の観賢カンケンさんに新しい松皮色の衣を授け高野山へつかわしました。観賢さんは弟子の寛空クワンクウと淳祐ジュウユウをつれて高野山へ参りました。



大塔イメージスケッチ ヤンス フバス (デンマークの建築家)

奥の院につき御廟ごぼの扉を開くと霧がたちこめていて、お大師さまのお姿は見えませんでした。観賢さんはご真言を唱えました。すると霧が晴れ、お大師さまのお姿が現れました。宇多上皇の夢と同じお姿です。しかし弟子の淳祐にはそのお姿が見えませんでした。まだ修行がたりなかったのです。

観賢さんは淳祐の右手を取り、お大師さまの膝に手を付けてあげました。すると淳祐の手には、お大師さまのぬくもりと、なんともいえない美しい香の香りが伝わりました。観賢さんはお大師さまの髪と髭をそり、上皇から賜った新しい衣に替えられました。

さて淳祐の手にうつつた薫香の香りは一生消えることがなかったそうです。やがて淳祐は大成し醍醐寺の座主になり、その後、石山寺に引退しました。石山寺には、淳祐の使われた經典が伝えられています。この經典にも淳祐の香の香りが伝わり「匂いの聖教」として今に伝えられています。

観賢さんは都に帰り、悌髪したお大師さまの髪を、朝廷に献じました。

宇多上皇 (867 - 931)

仁和寺を建立。東寺で伝法灌頂カンショウを受け

仁和寺に円堂・南御室ミナミミモを建て移住

これより仁和寺に東密の法燈が流れた

現代の道しるべ

文

阿部龍樹



PHOTO
SHU FUJIWARA

私の友人がカリフォルニアに出来るチベット寺院に、日本の梵鐘を造って贈りたいという。彼は学校の先生をしていたが、あるときチベットのリンポチェ（指導僧）に出会い、出家を決心する。リンポチェに出家を願い出たがゆるされなかった。しかし彼はリンポチェの仕事を手伝いながらアメリカへ渡る。そしてリンポチェがカリフォルニアにチベット寺院の建立を計画していることを知る。

「自分に何か手伝えないだろうか」

彼は日本の梵鐘を寄進する事を申し出た。

日本中を勧進してまわった。多くの縁が生まれた。高岡市での鐘の鋳込みの日には、真言宗と曹洞宗の僧侶が四人で鐘の完成と、彼の事業の成功を祈念した。鋳込みは無事におわり、鐘は美しい音を響かせた。

その夜、食事の席で彼が「日本の仏教の力には本当に驚いた。すごいエネルギーがあるね。」

マスコミの情報だけみると、仏教は文化財としてしか見えてこないけど、こうやって日本中を歩いていて、とくに若い世代に活力があるよね。」

美しい紅葉も、森にわけいらなければ見えない。無限の鉾脈の中にも、鉾脈を見分ける眼がなければ宝は発見できない。

彼はチベット寺院へ梵鐘を寄進するという活動の中に、日本の仏教の奥の深さを再発見した。

鐘は多くの人の助けによって東京まで運ばれた。高野山東京別院で開眼供養が営まれ、鐘は梵鐘に生まれ変わりカリフォルニアに送られた。

今も毎日、日本の美しい梵鐘の音がカリフォルニアの空に響いている。



チベット密教絵画の意味するもの

コロンビア大学準教授 阿部 龍一

チベットの密教絵画には、日本の佛教でも親しまれている佛菩薩の多くが登場します。例えば十一面観音、千手観音、不動明王、降三世明王等はチベット美術を特徴付ける変化菩薩や忿怒尊と同じ部類に属する尊像です。

しかし父母尊（ヤブ・ユム）と呼ばれる男女抱擁尊は日本の密教では全く知られることがなく、奇異の念を持たれる方も多いと思います。また近年はジャーナリズム等でこれを「密教による愛欲の大胆な肯定」等と喧伝する向きもあり、父母尊の中に込められた佛教の豊かな伝統の意味が忘れられがちです。

有名な維摩經の仏道品の維摩居士は「菩薩は般若波羅密を母とし、方便を父として如来の家系に生まれる」と説いています。つまり全ての修業者は覺りの智慧と大悲としての方便がひとつになるときに利他の菩薩として、如来の家の一員として、新たな生命を与えられ、それを守る後継者として成長してゆくのです。

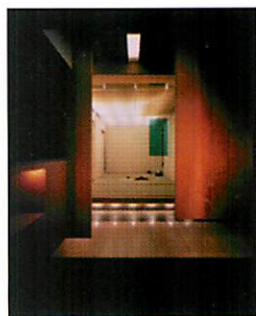
菩薩が智慧と大悲の結合から生まれるという大乘佛教の思想は密教のマンドラの中にも脈々と息づいています。マンドラに描かれている女尊のことを真言密教では明妃と呼びます。これは菩薩を生み出す智慧（明）の中でも最も貴い女王（妃）を意味しますが、弘法大師はその著作の中で明妃とは実は真言にほかならないと述べられています。法の王者としての諸佛のそれぞれのとなえる真言こそが法王の妃（きさき）であり、明妃としての真言と諸佛の禪定が一体となった瑜伽（ゆが・ヨーガ）の中から如来の大悲の体現者としての利他行の菩薩が次々に生まれ出てゆく様を描いたのがマンドラなのです。

マンドラが諸佛発生一無數の佛菩薩を生み出す生命の海と呼ばれる所以です。マンドラの溢れでるいのちの光の中に姿を現す父母尊を単なる愛欲の肯定と見なすのはあまりにも稚拙です。それは常識的な思考では欲望を喚起する対象や主題によって逆に佛教の心理を表すことに成功した一つまり貧りや迷いをただ否定し去るのではなくそれを受けとめさらに覺りへと昇華させてしまう密教の一極めて巧みに組み立てられた視覚的な比喩なのです。

天空の秘宝 チベット密教美術展 97年2月22日（土）-4月3日（日） 池袋東武美術館にて

My Healing Place

高山不二夫氏の設計
美しく広がりのある小間



空門のエントランス
右手にはギャラリーが

やすらぎの空間

日本橋の高島屋の脇の道を入ると「茶室 空門」がある。ビルの二階で緩いカーブの階段を上がると、蹲いがある。中は和紙で区切られ、道に面したガラス張りの空間には、お抹茶がいただける椅子席と小さなギャラリー。和紙のパーテーションの内側に茶室が二席造られている。六畳の広間と三畳の小間。間には水屋に続く廊下がある。

二間は間仕切りをせず、より広く使うことが出来る。そしてこの空間の大きな特徴が床柱や梁にアクリルを使っていることだ。閉鎖的になりやすい茶室が、光を通すアクリルの柱を持つことによって外部空間とのつながりと伸びやかさを持つ。

この茶室で毎月、阿部龍樹師による密教瞑想と講話の会「シンゴン・ホロニック・リラクゼーション」が開かれている。都市の中で高まる緊張感とストレスの重圧に悩む現代人のために。美しいお香の香りと声明の中での瞑想は、都心に居ることさえ忘れさせる。

瞑想のあとの講話、膳を囲みながらの談話に花が咲く。

瞑想は本来悟りを開くための方法だが、ストレスの多い現代人にはまたとない良薬かもしれない。

「シンゴン・ホロニック・リラクゼーション」予定

一月十三日（月） 二月十日（月） 三月三日（月） 午後六時半より

お問い合わせお申し込みは「空門」まで

「空門」〒108 中央区日本橋 3-8-16 電話 03-5202-5737

F A X 03-5202-1727



新刊紹介

空海密教 羽毛田義人著 阿部龍一訳

春秋社 定価 2060 円



KUKAI MAJOR WORKS

欧米で長年ベストセラーを続ける 空海入門書

待望の日本語訳 早くも増刷

今から10年前の1986年に、高野山大学100周年記念事業の一環として、コリン・ウィルソン、フリッチョフ・カップラ、ライアル・ワトソンという蒼々たる論客を招聘してシンポジウムが開かれた。各々の著作のファンであった私は、高野山の講堂で繰り広げられた刺激的な議論に魅了されたことを覚えている。上記の3名は共に、近代人が見失いがちな全体的で統合的な視点の重要性を説き、一方では、華嚴や密教の思想が秘めている大きな可能性を示してくれた。彼等のキー・コンセプト”即身成仏＝Attaining Enlightenment in this very existence”というフレーズと、見事な理論展開が印象深く記憶にあり、帰宅してから典拠とおぼしきある書物を調べたのである。後日、東京都内で開かれたコリン・ウィルソン氏の講演会の直後、「先日の”Attaining Enlightenment in this very existence”というフレーズは羽毛田博士の『Kukai Major Works』からの引用ですか」と、ウィルソン氏に訊ねてみた。すると、ウィルソン氏は羽毛田博士の「Kukai Major Works」をカップラ氏とワトソン氏とともに熟読し、白熱した議論をされたそうであった。さらに、弘法大師空海は世界史に登場すべき人物であり、今まで日本人が独占してきたことは残念であり、一刻も早く全著作の英訳を読みたいと、興奮を隠そうともせずに語ってくれた。今から1200年前に空海が提唱した即身成仏という概念が、羽毛田博士の卓越した新解釈の英訳により、世界的な知識人を魅了する思想として蘇ったのである。この「Kukai Major Works」が、満願寺貫首の長男であり、羽毛田博士の愛弟子である阿部龍一師によりここに見事に邦訳された。日本や仏教についての予備知識がない欧米人を対象にして書かれた書であろうと本書を捉えてはならない。読者は一読すれば直ちに、簡潔な表現の随所に博士の深い洞察と、該博な知識が凝縮されていることに気づくはずである。それにもまして、空海という一人の人間が幾度の遷都に象徴されるような激動の時代において、律令制度・政治権力・などに束縛されず、創造的な偉業が達成された秘訣が、本書には見事に明かされている。本書は、真摯に生きようとする人に勇気を与える書である。したがって、一人でも多くの人に読んでいただきたい。

大正大学 カウンセリング研究所 相談員 佐藤隆一

次号予告 三月一日発行

特集 飯島太千雄 書聖弘法大師を語る 弘法大師の宇宙的な書の魅力を解きあかす

新連載 1 西宮 紘 名著「空海火輪の時空」の著者による 空海の世界

2 自然に学ぶ日本の色 家庭で子どもと楽しむ 藍の生葉染め

創刊号はいかがでしたか 皆様の声をお聞かせください 近日ホームページ開設

EDITOR RYUJU ABE Art director and Photographer/SHU FUJIWARA

Special Contributors/rRYUICHI ABE KO FUJIWARA RYUICHI SATO

Editorial Staff/MIWA SAMURO TOMOKO MINOURA SEIRYU SATO KOJI TOKUMARU SIKYO FUJISAKI

EISHIN TAKAHASHI KEJI KOGA KAZUFUMI MOTOYAMA

Making Mechanic SANMITUSHA Printing KORINKAKU



この本はツリーフリーペーパーで作られています
さとうきびから砂糖を取り出したあとの 残った繊維から作られています